

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2009

課題番号：18530472

研究課題名（和文） キリスト教福祉における社会福祉援助の価値に関する調査研究

研究課題名（英文） The Survey Study on Value of Social Work in Christian Social Welfare

研究代表者

滝口 真 (TAKIGUCHI MAKOTO)

西九州大学・健康福祉学部・教授

研究者番号：20258635

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会福祉学

キーワード：ソーシャルワーク、キリスト教、キリスト教社会福祉、援助観、社会福祉思想、社会福祉の価値、質的研究法、ワードマイナー

1. 研究計画の概要

(1) キリスト教社会福祉の独自性を明らかにするための調査票作成において、キリスト教社会福祉研究者及びクリスチャンソーシャルワーカーに対してインタビュー調査を実施し、内容的妥当性の検討を行う。

(2) 上記(1)に関して、量的調査における信頼性を確保するためにスーパービジョンを受け、調査票の精査を高める。

(3) キリスト教社会福祉の独自性・コア全国調査（量的調査）においては、研究代表者が理事を務める日本キリスト教社会福祉学会において、クリスチャン研究者及びソーシャルワーカーらに対して郵送法による全国調査を実施する。

(4) 上記(3)で得られた調査内容のうち、キリスト教社会福祉の独自性・コアについて質的分析からその特徴を明らかにする。

(5) キリスト教主義施設への全国調査（量的調査）において、児童福祉施設、障害者福祉施設、高齢者福祉施設に対してアンケート調査を実施する。

(6) キリスト教主義施設への全国調査（質的調査）において、児童福祉施設、障害者福祉施設、高齢者福祉施設に対してインタビュー調査を実施する。

2. 研究の進捗状況

(1) キリスト教社会福祉の独自性を明らかにするため、キリスト教社会福祉研究者及びクリスチャンソーシャルワーカーら 14 名に対してインタビュー調査を実施し、調査票の内容的妥当性を検討した。

(2) キリスト教社会福祉の独自性・コアを明らかにするため、日本キリスト教社会福祉学会員 442 名に対して、郵送法によるアンケート調査を実施した。得られたデータは 143 名（有効回収率 32.4%）であった。「コア」について最も多い回答は「聖書」57 名（14.8%）であり、次いで「祈り」「個人の尊厳」「平和」「社会正義」「隣人愛」「十字架」「愛」「福音」と「奉仕」が同数で上位 10 項目が抽出された。この中から、「個人の尊厳」「平和」「社会正義」「隣人愛」「愛」は従来からのソーシャルワークに示される事項であるが、「聖書」「祈り」「十字架」「福音」に関しては、キリスト教ソーシャルワークの固有事項として示すことができよう。

(3) ワードマイナーによる分析の結果、宗教別にプロテスタントとカトリックによる大きな差異はなかったが、「エキメニユカルのため」「ミッション」「協働」「行い」「罪」「実現」「神の国」「平和の創造」「命の尊厳」「倫理」の 10 項目については、カトリック信徒のみに出現した事項であった。

(4) ワードマイナーによる分析の結果、キリスト教社会福祉のコア（用語）を選定した理由としての高頻度語については、「神」47 名（32.9%）が最も多く、次いで「キリスト教」「キリスト教社会福祉」「愛」「実践」「社会福祉」「人間」「福祉」「聖書」「祈り」（上位 10 項目）の順であった。このことから、キリスト教社会福祉の「コア」とその「理由」の双方に共通して出現頻度が高い用語として、「聖書」と「祈り」及び「愛」の 3 用語を選択した者が多いことが明らかとなった。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

研究代表者は研究題目に関して、日本キリスト教社会福祉学会理事・学会調査研究委員会委員として調査の機会が与えられた。そのことから、キリスト教研究者とキリスト教ソーシャルワーカーらで組織される本学会における全国調査を実施し、キリスト教社会福祉の独自性・コアを抽出することができた。また、調査票の内容的妥当性の検証においても、本学会員であるキリスト教研究者や統計学を専門とする研究者からも詳細なスーパービジョンを受ける機会に恵まれた。これらのことから、本研究はおおむね順調に進展しているといえる。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 当初の研究計画では、キリスト教主義施設への全国調査(量的調査・質的調査)において、児童福祉施設、障害者福祉施設、高齢者福祉施設等に対してアンケート調査及びインタビュー調査を実施する予定であった。研究計画において、日本キリスト教社会福祉学会員への意識調査を既に実施しており、今後は実践現場における福祉施設関係への全国調査を予定している。

(2) 先の日本キリスト教社会福祉学会学会員意識調査から、キリスト教社会福祉の独自性・コアに関して更なる詳細な再調査の必要性が浮上した。

上記(1)と(2)についての調査結果から得られるデータを量的及び質的に分析し、キリスト教福祉における社会福祉援助の価値を多角的側面から検証する必要がある。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

- ①滝口 真、「ソーシャルワークにおけるキリスト教福祉の意義について～聖書に基づく人間観とスピリチュアリティの視点より～」、日本看護福祉学会誌、第13巻1号、日本看護福祉学会、pp.33-43、2007年、査読有

[学会発表] (計9件)

- ①滝口 真、「キリスト教社会福祉の独自性と使命に関する考察(1)―キリスト教社会福祉学会員意識調査より―」、日本キリス

ト教社会福祉学会第50回記念大会、2009年6月26日、(於:ルーテル学院大学)

- ②滝口 真、「高田理論における社会福祉内発的発展論における考察―キリスト教社会福祉の価値と思想の視点より―」、日本福祉図書文献学会第11回全国大会、2008年10月18日(於:長崎ウエスレヤン大学)

- ③滝口 真、「キリスト教社会福祉の独自性に関する一考察―日本キリスト教社会福祉学会員の意識の視点より―」、日本社会福祉実践理論学会第25回大会、2008年6月22日、(於:関西学院大学)

- ④滝口 真、「ソーシャルワークにおけるキリスト教福祉の意義～スピリチュアリティと援助観の視点～」、日本キリスト教社会福祉学会第48回大会、2007年6月22日(於:西南学院大学)

- ⑤滝口 真、「ソーシャルワークにおけるキリスト教援助思想に関する一考察」、日本社会福祉学会第54回全国大会、2006年10月7日、(於:立教大学)

[図書] (計1件)

- ①滝口 真、「社会福祉内発的発展論における社会福祉の価値と思想―共生概念と価値の科学化から―」(第8章分担執筆)、関西学院大学出版会、武田丈・横須賀俊司・小笠原慶彰・松岡克尚編著、『社会福祉と内発的発展―高田眞治の思想から学ぶ』(全284頁)、担当 pp.187-205、2008年4月。

[その他]

[報告書] (計1件)

- ①滝口 真編著、『キリスト教社会福祉の独自性と使命―学会員意識調査報告書―』、日本キリスト教社会福祉学会調査研究委員会(高森敬久、高山直樹、滝口 真、谷川 修、永岡正己)、(全66頁)、担当 pp.5-64、2009年3月。